

References

1) Nilsson, S. 1962. Sv. Bot. Tidskr. 56: 351-361. 2) Alasoadura, S.O. 1968. Trans. Brit. mycol. Soc. 51: 535-540. 3) Miura, K. & M. Y. Kudo (in preparation). 4) Hughes, S. J. 1951. Mycol. Pap. No. 45. 5) Marvanová, L. & P. Marvan 1969. Česká Mykol. 23: 135-140. 6) Nilsson, S. 1964. Symb. Bot. Upsal. 18(2): 1-130. 7) Van Zinderen-Bakker, E. M. 1934. Ann. Myc. 32: 101-104. 8) Tubaki, K. 1963. Trans. Mycol. Soc. Jap. 4: 83-90. 9) Butler, E. E. & A. H. McCain 1968. Mycologia 60: 955-959. 10) Hennebert, G. L. 1963. Canad. Journ. Bot. 41: 1165-1169.

* * * *

次の2種の菌類を新種として記載・報告すると共に、*Pyramidospora* 属について若干の検討を加えた。1) *Pyramidospora fluminea* Miura et Kudo (水生菌, 不完全菌類), 2) *Pyramidospora ramificata* Miura (水生菌, 不完全菌類)。

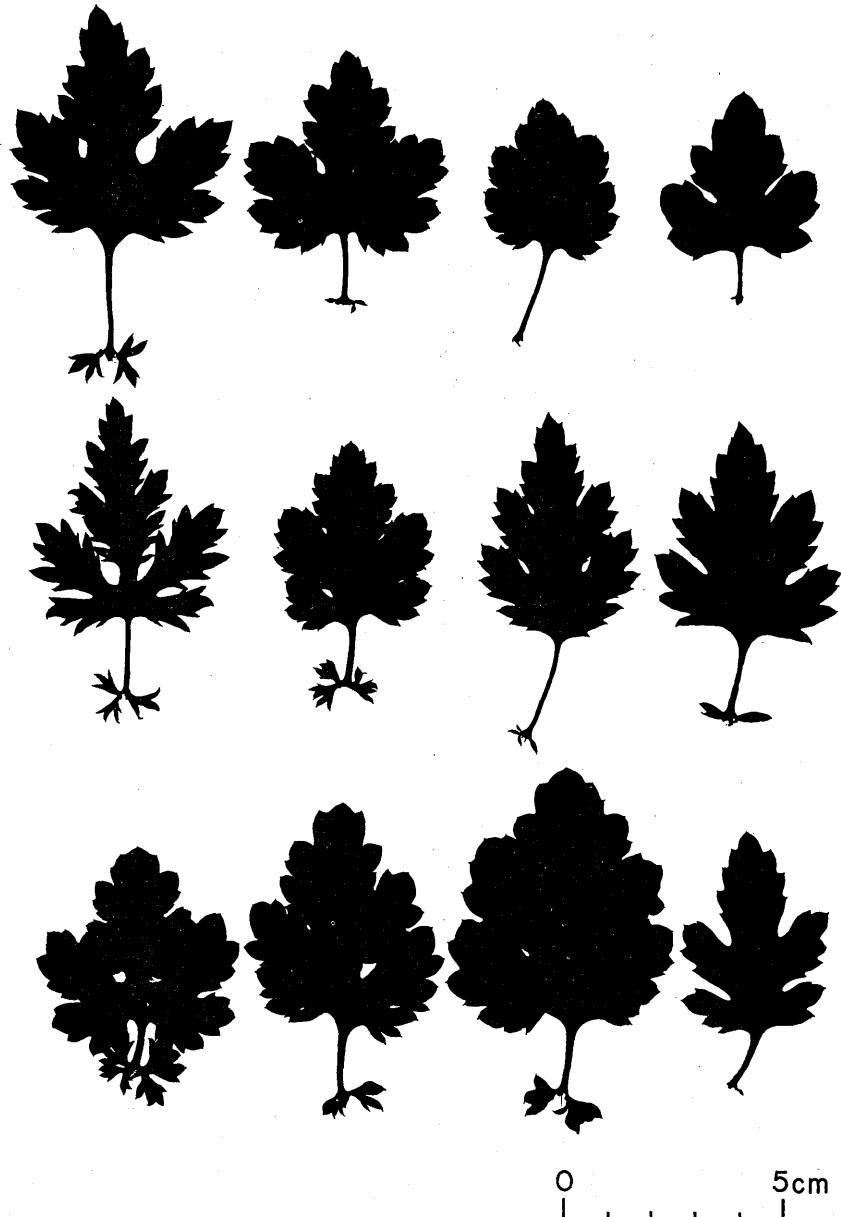
□Chow Cheng: **Formosan Native Rhododendrons** 17.5×9.5 cm, 26頁, 原色写真16図, 1970。園芸業者のカタログであるが, 台湾のツツジ・シャクナゲ類17種類の美事な原色写真に英語と日本語の解説がついている。現在, 台湾からは18種類知られているので, 略らどの種類がのっている珍らしい出版物である。¹新種がのせてあるが, これは *R. transalpinum* Ohwi と思う。台中市立徳街194, 周鎮蘭園。 (山崎 敬)

○植物 シルエットの簡単な作製法 (渡辺邦秋) Kuniaki WATANABE: A simple method of making plant silhouettes.

植物の葉や茎の形態を示す際に, 黒い影絵, すなわちシルエットが, しばしば用いられている。この方法によると, 複葉, 多鋸歯葉の葉縁, 托葉, 分枝の様子などを正確に示すことができ, 形態比較, 形態変異を正しく表現することに利用できる。

Manton, I. (1950) は, シダ植物の種間および種内の葉形の相違をこの方法で示したが, その後, シダ植物に限らず, 広く種分化の研究に, シルエットが用いられている。福田 (1968) は, ネガタイプ写真から印画紙に焼付けしたものに墨入れし, これを減力することによって輪郭を表わす方法を報告している。この方法をシルエット作製に応用すると, 縮尺または拡大を自由に調整できて便利であるが, 少し煩雑なことはまぬがれえない。

筆者は, 葉や茎の分枝の様子をシルエットによって, もっと簡単に正確に表現する方法として, 複写用ネガポジ法を用いている。図は, この方法によって, ノズギクの



Chrysanthemum japonense Nakai, ノデギク, $2n=54$, の葉の変異、広島県安芸郡坂町横浜産。

1 小集団の葉形変異を表わしたものである。

筆者の用いているものは、三菱製紙のネガ（硝酸銀と塩化ナトリウムをゼラチン溶液中に混合したもの）一ポジ（ハイポを合成樹脂溶液の中に混入したもの）複写用紙であるが、他社製品を用いても、同様の結果がえられるはずである。シルエット作製の手順は、

- 1) ミッビン・ヒシラピッドN（半暗室用ネガ紙）上に、圧葉標本等、写そうとする植物を密着させる。なお、使用するネガ紙が、半暗室用であるため、淡茶の暗室用電球を点灯したままで作業ができる、ネガ紙上で、思いどおりに構図の決定や、材料の並べ変えができる。
- 2) その上を透明ガラス板でおおう。
- 3) 引伸し機または幻燈機を使って、下のデーターに示したように通常の焼付けと同様の露光を行なう。正確なシルエットを得るためにには、できるだけ平行光線になるような引伸しレンズを使うことと、十分な露光を与えることが必要である。
- 4) でき上がったネガ紙を、ミッビン・ヒシラピッドP（ポジ紙）の使用規定どおりに膜面を合わせて重ね、指定現像液を入れた現像器を通して、密着反転現像させる。

以上ででき上がりであるが、所要時間は、約3~5分で正確な真黒い植物シルエットが作れる。長期間保存したり、変色させないためには、1.5%酢酸（写真用停止液）で膜面のヌメリをよく洗い去り、水洗後、乾燥させる。通常使用しているネガポジ法のデータは、下記のとおりである。

- 光源 フジ・エンラージングランプ 100V 150W
- 引伸しレンズ E・L・ニッコール ($f=5\text{ cm}$)
- ネガ紙 三菱製紙・ミッビン・ヒシラピッドN（半暗室用ネガ紙）
- ポジ紙 三菱製紙・ミッビン・ヒシラピッドP
- 光源からの距離 45cm (1/2 A4版程度の植物) しづり解放、露光 90~120秒
以上。60cm (A4版程度の植物の場合) しづり解放、露光 240秒以上。

- 現像液 ヒシラピッド・デベロッパー：水 = 1:1

- 現像器 ヒシラコピイ・プロセッサー

この方法の考案に際して、広島大学、田中隆荘先生から多くのご教示を得た。ここに厚くお礼申し上げる。

参考文献

Manton, I. (1950). Problem of cytology and evolution in the Pteridophyta. Cambridge, Univ. Press (Cambridge) 316 pp. 福田泰二 (1968) 植物形態学会報 かたち1号. 3頁. (広島大学理学部植物学教室)